

### 3 点検・評価に関する意見等

#### 1 学識経験者

教育委員会が行った点検・評価の結果に関して、次の4名の方から意見や助言をいただきました。今後の施策や事業等の展開に活用してまいります。

- 澤田 慎也 氏 (北海道苫小牧東高等学校 校長)  
 小笠原 正樹 氏 (北海道苫小牧支援学校 校長)  
 中嶋 将吾 氏 (北海道私立幼稚園協会 苫小牧・日高支部)  
 藤島 豊久 氏 (苫小牧市社会教育委員会議 議長)

#### 2 本報告書に関する御意見

頂いた御意見・御質問について、教育委員会の考え方と併せて次のとおり掲載します。  
 (一部、抜粋または要約しております)

##### (1) 教育委員会の活動状況について

御意見・御質問	教育委員会の考え方
<p><u>小中高連携について</u>                      これからの小中高連携の取組や活動の方策を検討すべきと考えます</p>	<p>小中高の連携につきましては、これまで、インターシップや教育支援学生ボランティアなどの交流を行ってきました。また、令和4年度には、従来、高校の養護教諭と市の健康支援課で行っていた「思春期ネットワーク会議」に、市内中学校の養護教諭及び市教委担当者が参加し、今後の性教育の在り方等について意見交流が行われるなど、交流の機会が増えてきております。今後は、さらなる連携した取組について、検討してまいります。</p>
<p><u>会議に向けた取組について</u>                      教育委員会会議における協議がさらに深まり、充実されるよう、必要に応じて教育委員会会議終了後に次回の会議の議事内容に関する学習会や意見交換等の時間を設けてははいかがでしょうか。</p>	<p>教育委員会で審議される案件などを、教育委員に理解を深めてもらい、活発な議論が展開されるよう、今後とも、委員に対し十分な説明や、学習の機会を設けるなどの工夫をしてまいります。</p>
<p><u>視察等について</u>                      他市町村との情報交換や視察等は、広域連携の視点でとても大切であり、今後も必要と考えます。</p>	<p>様々な教育の諸課題を解決していくためにも、他市町村と協力、連携し、教育行政の円滑な執行と向上を目指していきたいと考えており、今後も情報交換や視察などの機会を確保してまいります。</p>

## 【その他御意見】

### 会議の開催状況について

- ・開催頻度及び議案案件については、概ね適切であると考えます。
- ・議案などで取り上げている案件についても教育行政執行方針や苫小牧市教育大綱に基づいた適切な内容であることを理解することができました。
- ・議事録からは、市民の代表である教員委員の方々が教育行政に民意を反映させるため、課題意識を持ちながら、真摯な協議を行い、意思決定がなされていることが理解できました。総合教育会議において市長と教育委員会が市政や教育行政の様々な課題に対し、効率的且つ効果的に協議されていることが理解できました。
- ・昨年度に比べ市長との連携も増えており、良い傾向だと思えます。

### 委員の活動状況について

- ・教育施設訪問及び活動等については、概ね適切であると考えます。
- ・学校訪問や各種行事への参加について、市内外の教育現場の現状を把握し、今後の施策に生かすため、本市における主要な施策である ICT の活用促進、不登校児童生徒への支援の充実、小・中学校間の一貫・連携した指導の推進に関連付けた内容で適切に実施されたものと考えます。
- ・樽前小学校改築に向けて日々取り組んでいただいていると思いますが、生徒数が減少している話も耳にします。この改修工事をきっかけに歴史ある樽前小学校をしっかりと存続して欲しいと思います。

## (2) 主要施策等の点検・評価について

御意見・御質問	教育委員会の考え方
<p><b>P7 No.1 小・中学校の一貫・連携した指導の推進</b></p> <p>「インプルーブ6」から「苫小牧オール9」へと発展し、取組が少しずつ成果として表れてきているのではないのでしょうか。小・中学校全ての教職員が15歳の苫小牧の子供に責任を持つという姿勢は素晴らしいと思います。</p> <p>昨年度との比較で、カリキュラム接続の研究ポイントがやや下がっていますが、やはり小学校から中学校への接続を考えた時に、環境の変化に対する対応（人、物、学校文化）や9年間を通したカリキュラムづくり等の必要性があげられます。</p> <p>次年度以降、課題としてあげられていた内容について実践が深められ、カリキュラム接続の取組がさらに前進することを期待します。</p>	<p>令和2年3月に「苫小牧ALL9推進基本方針」を策定し、各エリアにおいて目指す子ども像を共有した小中連携の取組が推進され、児童生徒や教職員の交流が図られるなど、取組の成果が着実に表れてまいりました。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、この3年間は交流の場面が制限される状況もありましたが、今後は、カリキュラム連携のさらなる推進を図り、教育大綱で掲げている「未来の社会をつくるひとづくり」の実現を目指してまいります。</p>

御意見・御質問	教育委員会の考え方
<p><b><u>P8 No.2 基礎学力の確実な定着</u></b></p> <p>成果と評価理由より、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた校内研修が積極的に実施されたことが理解できます。全ての学校で実現を図るために3つの視点から授業改善に取り組んだことと思います。小学校、中学校において従前とは全く異なる指導方法を取り入れなければならないということではなく、現在まで行われていた日々の授業を「主体的・対話的で深い学び」の視点から改善し、単元や題材といったまとまりの中で指導内容を関連付けしつつ、質を高めていく必要性があります。各校の取組が授業改善にどのように結びつき、成果があげられたのかという分析や説明、あるいはどのような課題があるのかということを各校と共有しながら、今後も継続して施策を推進していただきたいと思います。</p>	<p>本市の共通取組事項である「焦点化・イメージ化・視覚化」に基づいた授業改善が進められ、従来の実践の蓄積を生かしつつ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践が広まってまいりました。</p> <p>今後は、全国学力・学習状況調査や苫小牧市統一学力検査等の結果を踏まえ、課題を分析・考察した資料を各小・中学校と共有するなどして、さらなる授業改善に向けた検証改善サイクルの確立を図ってまいります。</p>
<p><b><u>P9 No.3 ICTの活用促進</u></b></p> <p>授業等におけるタブレット端末の使用については、使用率が上がっており、かなり効果的な活用が図られていると考えます。その継続性が必要となるため小・中学校及び高校との連携による研修会や交流会等の実施を検討してはどうでしょうか。</p>	<p>本市では、GIGAスクール構想の実現に向けて、1人1台端末の導入から3年が経過し、ICTの効果的な活用について研究を進めているところです。ICTの活用においては、教科の学びを深めるための活用について、教科の特質に応じた専門性が求められることから、例えば、高校の教員から学ぶ機会を設けるなど、交流の在り方等について検討してまいります。</p>
<p><b><u>P9 No.3 ICTの活用促進</u></b></p> <p>学習用タブレット型端末の導入により、学校の授業が変わったということを耳にします。情報化社会の中では、子供たちの情報活用能力の育成が求められているところですが、SNSによるトラブルも増加傾向ですので、ネットモラルの指導もしっかり行い、情報を正しく活用することも身につけてもらいたいです。</p>	<p>1人1台端末の活用につきまして、今年度改訂した教職員向けの「苫小牧市ICT活用ハンドブック」では、情報モラルの指導に関する内容を新たに盛り込みました。各学校においては、本ハンドブックの内容を踏まえ、児童生徒の発達段階に応じて、端末活用のきまりを児童生徒と一緒に考えるなど、児童生徒が主体的に情報モラルについて考える機会を設けています。今後は、家庭や関係機関と連携した情報モラル教育を推進してまいります。</p>

御意見・御質問	教育委員会の考え方
<p><b>P9 No. 3 ICTの活用促進</b></p> <p>・研修会への参加や授業における ICT 機器を活用した割合が小学校、中学校共にとても高くなっており、「個別最適な学び」を実現するツールとして一人一台端末の活用が進められていることが理解できます。</p> <p>・「個別最適な学び」は「指導の個別化」と「学習の個性化」に整理されているところですので、この二つの視点を持った授業実践、そして「協働的な学び」と一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくということを踏まえながら各校で取組を継続してほしいと考えます。</p>	<p>「令和の日本型学校教育」においては、学習指導要領で示された資質・能力の育成において、ICTを活用することは必要不可欠とされております。</p> <p>子ども一人一人の特性や学習到達度等に応じた「指導の個別化」、教師が子ども一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供する「学習の個性化」、子ども同士あるいは多様な他者と協働しながら必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」、それぞれの学びを往還することで一体的な充実を実現できるよう、ICTの効果的な活用に関する先進的な活用事例について市教委が情報発信を行い、学校現場のニーズに応じた研修の開催など取組を進めてまいります。</p>
<p><b>P10 No. 4 外国語教育の充実</b></p> <p>「外国語や外国の文化を身近に感じるとともに、体験的理解を深めることができた」とあります。体験的理解は英語だけではなく他の教科にも取り入れることができれば、より効果的な学習が可能になるかと考えます。また、ALTとして時には他の教科、例えば地理や社会の教科書にも関連付けて実施してもよいのではと思います。</p>	<p>現行の学習指導要領においては、体験活動の充実が重要であるとされており、各教科の学習においても、教科の特質に応じた体験活動を重視し、体系的・継続的に体験活動が実施されています。</p> <p>ALTにつきましては、外国語の授業だけではなく、他教科の学習や学校行事における活用も推奨しており、各学校の実態に応じて、様々な場面でALTが活躍しております。</p>
<p><b>P11 No. 5 特別支援教育の充実</b></p> <p>・特別支援教育の充実に向けて、市特別支援教育基本方針の策定や人的、物的側面の環境整備等、具体的な取組が実施されていることが理解できました。</p> <p>・特別支援教育では、各障がいの特性を踏まえた指導・支援や特別の教育課程編成の意義について踏まえることが必要です。また、現在の学習指導要領では「何を教えたか」から「何を学んだか」ということを重視していますが、このことは通常の教育も特別支援教育も同様に重視されることです。これらを踏まえながら各校で指導の充実に取り組むと同時に、小・中学校、高等学校、特別支援学校、福祉等々、全ての関係機関が連携し、特別支援教育の一層の発展と充実に期待します。</p>	<p>現在、特別支援教育相談員による巡回相談、適切な教育課程編成や専門性の向上に資する研修、通常の学級担当教諭も対象とした研修を実施し、特別支援教育に関する資質向上に向けた取組を推進しております。</p> <p>今後も支援を必要とする児童生徒を含めすべての子どもたちの学びが深められるよう、授業改革、各種研修会や研究委員会の充実、センターの機能を有する苫小牧支援学校との研修や幼・保・おおぞら園さらに放課後デイサービス等の関係機関との合同研修を充実させるなど、子どもたちの一貫した支援に繋がるよう努めてまいります。</p>

御意見・御質問	教育委員会の考え方
<p><b>P12 No.6 教職員の資質向上</b></p> <p>日常、先生方も忙しいため、集合型以外のオンラインによる研修は非常に効率的であると考えます。その研修参加の記録を個人個人で残すことも必要かと思えます。</p> <p>高校では、北海道内公立校全高校で今年度から記録を残すことを始めました。</p>	<p>苫小牧市内小・中学校においても、今年度から「教育公務員特例法及び教育職員免許法の一部を改正する法律」により、教員等の研修履歴記録の作成を導入したところでございます。</p>
<p><b>P12 No.6 教職員の資質向上</b></p> <p>オンラインやハイブリッド形式の研修スタイルが定着したこともあり、各種研修講座への参加者が増加しており、子どもたちの確かな学力を育むことにつながっていることと思えます。このことについて例えば学校評価等を活用して子どもたちに「授業がわかりやすいですか」等の意識調査を行ってみても良いのではないのでしょうか。</p> <p>また、教職員としての資質・能力の向上を図るためには働き方改革の視点も重要です。ICTを活用した業務改善等、在校等時間の縮減から働き方の質を改善し、教材づくりや子どもたちと向き合う時間を確保していくことも必要です。</p>	<p>各小・中学校では、毎年実施している学校評価において、授業内容に関する項目を盛り込んだアンケート等を行っており、学校評価の結果を踏まえ、授業改善の方向性を教職員全体で共有しております。</p> <p>本市では、校務支援システムの導入や、情報配信システムの活用により、業務改善に取り組んでまいりました。今後は、ICTの活用等により、先生方が子どもと触れ合う時間を確保し、教育の質を高めることができるように、さらなる業務改善の推進を図ってまいります。</p>
<p><b>P13 No.7 道徳教育の推進</b></p> <p>いじめ防止の施策と関係しますが、外部講師による「こころの授業」の実施は、努力することや命の大切さ等、児童生徒の豊かな心の育成に今後必要であると思えます。専門分野で活躍する様々な外部講師による出前授業をぜひ継続して欲しいと思えます。</p>	<p>外部講師による「こころの授業」では、命の大切や多様な性の在り方など、近年の教育的な課題に応じた内容も増加しており、児童生徒の思いやる心や命を大切にすることを養うことに効果的な取組として、今後も継続してまいります。</p>
<p><b>P14 No.8 体力・運動能力の向上</b></p> <p>全国平均を上回っていることが目的化されるものではないことは御承知のとおりです。数値を参考にしながら、児童生徒が学校や家庭、地域で主体的に体を動かすことを楽しむ機会を増やす必要があると思えますし、生涯スポーツといったところにつながっていくと良いと思えます。</p>	<p>全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、本市の児童生徒がテレビやスマートフォン等による映像の視聴時間であるスクリーンタイムが長く、運動する時間が少ない傾向が見られました。</p> <p>今後は、生涯にわたって心身の健康を保持し、豊かな生活を送るために、体を動かすことの大切さなどについて伝えられるよう、家庭への普及・啓発を行ってまいります。</p>

御意見・御質問	教育委員会の考え方
<p><b>P16 No. 10 食育の推進</b></p> <p>・栄養教諭による授業や毎月のメニューに合わせた情報発信等、様々な取組から児童生徒が健全な食生活を実践できるようになっているのではと思いました。学校給食の満足度や朝食を食べている割合に示されていると思います</p> <p>・地場産物を活用したメニューの開発も子どもたちが食や自分の住んでいる地域に対して愛着を持つことができる良い取組です。これを発展的に考え、子どもたちに地域の食材を使ったメニューを考えてもらい、給食で提供できるとさらに興味・関心が深まるのではと思いました。</p>	<p>地場産物の活用につきましては、引き続き、生産者や事業者と連携して進めてまいりたいと考えております。</p> <p>また、更なる食育の推進に向けては、児童生徒のアイデア活用など、いただいたご意見を踏まえながら、地域の食文化や食材への関心が深まる取組を進めてまいります。</p>
<p><b>P17 No. 11 不登校児童・生徒への支援の充実</b></p> <p>不登校児童生徒数に増加傾向が見られるもの、3カ所目となる教育支援センターの開設等、児童生徒の学びを止めない、保障する体制づくりが進められていることは評価できます。今後はその教育効果に対する質的な評価や今後の取組に示された保護者、市民に対する民間のスクールや支援団体に関する情報発信や個に応じた支援の評価について引き続き取組を進めていただきたいと思います。</p>	<p>不登校児童生徒の社会的自立に向け、子どもたちの居場所づくりやS S W等の相談機関を通して心理的な安全を確保し、学びを止めない取組について推進しております。</p> <p>今後、一人でも多くの不登校児童生徒が社会とつながる支援体制を検証し、公的機関及びリースクール等民間施設での相談・指導、及びICT等を活用した学習について一人一人がおかれている状況を踏まえ、指導の改善に生かしてまいります。</p> <p>また、各小・中学校や公共施設に設置している「学びの居場所探し」や家庭と学校をつなぐ情報誌「ほ・む・す・く」への掲載等、今後も幅広い周知の在り方について検討してまいります。</p>
<p><b>P18 No. 12 いじめ防止の取組の充実</b></p> <p>いじめ防止の観点からいじめ根絶の事業を市内小中高での連携で実施を検討してはどうでしょうか。</p>	<p>全小・中学校の代表者が参加し実施している「苫小牧市いじめ問題子どもサミット」では、いじめの問題を主体的に捉え、根絶に向けた学校の取組の交流を毎年行っております。今後、小・中学校と高校の取組を相互に知る機会や意見交流する場を設定するなど、継続した「いじめ未然防止」の在り方について、検討してまいります。</p>

御意見・御質問	教育委員会の考え方
<p><b>P18 No. 12 いじめ防止の取組の充実</b></p> <p>早期発見・早期対応が図られており、認知された全てのケースがいじめの解消につながっていることは取組の成果です。今後も継続すると共に、子どもたちがより相談しやすい教育相談体制の充実に望みます。</p>	<p>「心身の苦痛を感じているものはいじめである」という定義を踏まえ、些細な兆候でも見逃さず積極的にいじめを認知し、「いじめの小さな芽を摘む」意識の醸成に努めてまいります。</p> <p>また、日頃から児童生徒と触れ合い、信頼関係の構築に努めるとともに、SOSの出し方を育む教育の推進や校内外におけるいじめ等の相談窓口の周知、いじめを訴えやすい環境づくりを推進してまいります。</p>
<p><b>P20 No. 14 地域とともにある学校づくり</b></p> <p>モデル地区の学校の取り組みを基にして、令和5年度からの市内全域でのCS導入への取り組みが着実に進められていることを理解しました。CSについては道内ですでに導入した学校において成果を上げている一方で、様々な理由で課題を感じている学校も見られる現状にあります。</p> <p>また全国に目を向けてみると、令和4年3月14日付けの「コミュニティ・スクールの在り方等に関する検討会議最終まとめ」では、今後のCSの在り方として改めてその主旨や目的、必要性や有用性について関係者に十分理解を求めながら、地域に開かれた学校運営の実現、学校と地域が子どもたちのために連携・協働する社会を日常とすることが必要であるとしています。全道的、全国的な取組状況や成果と課題を参考にしながら、学校運営の活性化や地域とともにある学校づくりがより一層進むよう、取組を推進していただくことを望みます。</p>	<p>ご意見のとおり、CS（コミュニティ・スクール）については、国・北海道の取組状況や成果と課題を参考にしつつ、また苫小牧市内の各学校運営協議会の事例等の情報も共有しながら、学校運営の活性化や地域とともにある学校づくりを進めてまいります</p>
<p><b>P21 No. 15 学校における働き方改革</b></p> <p>部活動の地域移行については、今後早急に進めて行くべき内容と思われますので、各小・中学校はもとより、高校側としても市としての見通しや方針の情報をいただき、共に連携するべきと考えます。</p>	<p>「苫小牧市部活動の在り方に関する検討委員会」の開催や、各中学部活動の現状の把握、受け皿団体との個別協議などを通して、地域移行に向け、作業を進めることを考えているところでございます。</p> <p>検討していく中で、ある程度の情報提供が可能となりましたら、お示しし、共に連携を図る部分がありましたら、御協力をお願いいたします。</p>

御意見・御質問	教育委員会の考え方
<p><b>P21 No. 15 学校における働き方改革</b></p> <p>教職員の事務作業の軽減、行事の見直し、あるいは業務負担の軽減を図るための人的配置等、徐々に成果が現れていることがわかります。</p> <p>しかしながら、指導の充実、教育の質的向上を図るためには、一人一人の教員が、働く時間の量を増やす、確保するという考え方から働く内容の質的改善、向上に取り組むという発想の転換が必要です。ICT 機器の活用に関していえば、朝の連絡は連絡用の掲示板、学年等、小単位の打合せや連絡についてはチャットを活用している学校もあります。ぜひ道内や全国の先進的な事例も参考にしながら進めていただきたいと思います。</p>	<p>ICT 機器の活用としまして、各小・中学校におきましても校務支援システムによる連絡用の掲示板や日程連絡により、朝の打合せを短縮するなどの取組を行っている学校もございます。</p> <p>今後も道内や全国の取組事例も参考に業務負担の軽減を図ってまいりたいと考えます。</p>
<p><b>P25 No. 19 読書活動の充実</b></p> <p>GIGA スクールが始まり一人一台の PC が子どもたちの手に渡りました。今や読書もタブレット PC で行う時代。学校では会社員が実施しているプレゼンに似たようなことも実施していると聞いています。読書活動にも PC を取入れ、読んだ本の感想を文字や絵で表現し、発表してはいかがでしょうか。なかなか意見の言えない子、表現が苦手な子、将来社会に出て自分の意見をプレゼンする時にも役に立つのではないのでしょうか。</p>	<p>1人1台端末の活用については、児童生徒の資質・能力を育成するために、児童生徒の実情を踏まえながら、教科書、資料集等の教材、書籍、新聞、インターネット等を効果的に組み合わせ活用することが重要だとされており、各学校においてタブレット端末を活用した取組が行われております。</p> <p>読書活動に係る取組では、例えば、自分のおすすめの本の魅力を伝え合う「ビブリオバトル」において、1人1台端末で紹介スピーチを撮影し、お互いに動画を視聴することで内容を共有するなど、工夫した取組を行っている学校もございます。</p>
<p><b>P25 No. 19 読書活動の充実</b></p> <p>1日の読書時間が10分以上と回答した児童生徒の割合がここ3ヶ年ほぼ横ばいの状態が見られます。大人も子どもも活字離れが進む中で「読書が好き」と感じている子どもたちがどの位いるのかと思いました。</p> <p>そのような中で「親子読書」は良い取組であると思います。加えてコロナによる行動制限が無くなった今、学校図書館の利用の他、公立図書館を利用する市民の声やニーズについても合わせて把握し、分析していくことが必要と考えます。</p>	<p>現在、第四次苫小牧市子どもの読書活動推進計画に基づき、各種施策を推進しているところですが、令和5年度が計画の更新年となることもあり、小・中学生を対象に、読書状況についてのアンケートを実施しました。「読書が好き」「どちらかというが好き」と感じた児童が86.6%、生徒が76.1%と前回(平成30年度)の調査から、児童で2.7%、生徒で1.0%それぞれ減少しております。本調査結果やご指摘の点などをふまえ、次期計画策定につなげていきたいと考えております。</p>



御意見・御質問	教育委員会の考え方
<p><b>P26 No. 20 家庭教育力の向上</b></p> <p>家庭は児童生徒が健やかに成長・発達する上での「安心基地」であり、すべての教育の出発点です。今後の取組と課題にもありましたが、情報配信システムの等を活用し、理解啓発を進めて行くことは必要と考えます。加えて一人一台端末を活用した情報の発信（研修ビデオ等も含む）や親子で学ぶコンテンツの提供等、家庭教育力のさらなる向上に向けた取り組みの充実が望まれます。</p>	<p>家庭教育情報紙「ほ・む・す・く」を、情報配信システムを活用して配付するなど、教育活動に関する情報発信を進めてまいりましたが、今後につきましては、PTAと連携した学習会や研修会を実施するなど、より効果的な情報発信の在り方について検討してまいります。</p>
<p><b>P28 No. 22 防災教育の充実</b></p> <p>全ての学校で危機管理マニュアルの見直しや避難訓練が実施されていることがわかりました。今後は、1日防災学校の実施校の拡大、町内会との連携等、災害時を想定したより実際の訓練が必要であると思います。</p> <p>関連して、地震や噴火時に避難所に指定されている学校も多いかと思いますが、各校で地域住民が学校に避難を求めてきた時の対応も想定しておく必要があると考えます。</p>	<p>「苫小牧市学校防災マニュアル」に基づき、各学校においては危機管理マニュアルの点検・見直しを行っておりますが、災害はいつ発生するか予測が困難であることから、常に災害を想定し、災害時に児童生徒が主体的に行動できるように、防災意識を高める教育の充実を図ってまいります。</p>
<p><b>P28 No. 22 防災教育の充実</b></p> <p>「苫小牧市学校防災マニュアル」は調べたところ平成26年に作成されたものようですがその後の改訂版は出されていないのでしょうか。平成30年、胆振東部地震はブラックアウトが起り北海道全域停電となりました。地震以前に作成されたものでは情報を得るには通信インフラのように電気の供給がないと利用できないものと考えます。自家発電を備えているところもあると思いますが電柱の倒壊や電線の切断も考えられます。地震発生後の情報取得方法など追補版があればよいと考えます。</p>	<p>「苫小牧市学校防災マニュアル」につきましては、胆振東部地震の対応を踏まえ、令和元年に全面改訂を行っており、各小・中学校においては、本マニュアルを基に各学校の実態に応じて学校独自のマニュアルを作成し、随時点検・見直しを図っているところです。</p>

御意見・御質問	教育委員会の考え方
<p><b>P28 No. 22 防災教育の充実</b></p> <p>コロナ禍で学校をはじめとする様々な公的機関がその活動の制限を受けてきました。一方では制限があってもできることをとポジティブ思考で取組を進めてきたのも事実です。一人一台端末の整備と活用、オンライン形式の研修等、困難な状況にあっても生み出されたものはたくさんあります。本市においても学びを止めず、各種取組を地道に継続してきたことが評価から理解することができます。</p> <p>「学び直し」を行う学習の場の提供、スポーツ・文化芸術活動の推進等、今後も継続した取組を期待したいと思いますし、公民館等においても横の連携を図りながら、地域住民の学習ニーズに対応した生涯学習拠点としての機能が存分に発揮されることを期待します。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症により予定していた事業の中止や延期、規模を縮小するなど影響を受けた年もありましたが、各取組みにおいて創意工夫し開催してまいりました。令和4年度末に第六次苫小牧市生涯学習推進基本計画を策定し、様々な施策に取り組んでいきますが、今後も各施設や地域等と連携を図りながら、生涯学習の推進に努めてまいります。</p>
<p><b>P30 No. 24 生涯学習の充実</b></p> <p>ナナカマド教室は、とても良い取組と思われます。周知機会をぜひ増やして下さい。</p>	<p>ナナカマド教室については、「学びなおしの機会」として学習する場を提供する生涯学習事業として、あらゆる世代の方にご参加いただきたいと考えておりますことから、令和4年度、新たに若年層向けの周知として、苫小牧市公式LINEを活用した周知を行ったところでございます。今後も様々な媒体での周知に努めたいと考えております。</p>

### 【その他御意見】

・「こころの授業」が児童生徒に大きく影響していることがわかりました。道徳教育は子供たちが潜在的にもっている“気持ち”を目覚めさせ、命を大切に思う心の修練でもあります。教科書も必要ですが様々な体験活動によって培われてくるものです。学校教育、家庭教育そして社会教育の連携がとても大切です。それぞれの分野がお互いに補完し合いながら大切に育てていきたいものです。

(3) その他

御意見・御質問	教育委員会の考え方
<p>本市の規模は大きく、また地域性からなのか、小中高の連携が薄いと考えています。大学等の高等教育機関が少ない地域だからこそ、市教委が調整役となりながら、縦（小中高の学校）、横（企業や団体等）の関係のハブとして機能していただけることを期待しています。</p>	<p>本市においては、公立高校と私立高校が複数あり、小中高の連携が困難な状況がありました。今後は、コミュニティ・スクールの導入など、中学校区を基本とした小中連携を進めるとともに、高校や地域の人材と連携したふるさと教育など、社会との連携・協働による教育活動の構築について検討してまいります。</p>
<p>定量評価は、はかりやすい面がある反面、定性評価の表し方は非常に難しいと思います。例えば、ある事業の参加数や参加率が上がったとして評価が高くなる傾向にありますが、参加者が少なくともそれに関わる一般市民の協力者やボランティアなどの参加が多数に登り、やがてその方々がその経験を得て、様々な事業を展開、発展していくことがあるとすれば、それは、その方々の生涯学習の活動の一助となり定性評価になり得て、今後継続すべき取組となることがあるということを教育委員や予算部署（監査等）に理解をしていただくことが必要と考えます。</p>	<p>生涯学習の推進・文化芸術の振興については、現在、第六次生涯学習推進基本計画や第2次市民文化芸術振興計画などの施策により事業を展開しておりますが、ご指摘のとおり、各種取り組みを継続・着実に進めることで、その成果が図られることもあると考えておりますことから、引き続き関係部署などと協議してまいりたいと考えております。</p>
<p>行政の文書を読むと“地域”という文字をよく見かけます。具体的に何を指すのかを記述しなければならないところを総称としてこのような表現としているものと考えますが、地域（人）、もしくは地域の組織（人）が読んだ場合、具体的に誰を指しているのか不明瞭ではないかと思います。また、読む側からすると、文章の前後において、地域が何を指すのかが変わってくる。地域が人や組織を指すのであれば具体的に何（誰）を指すのかをはっきりと記述しなければその他大勢と考え、自分事とは捉えず理解が得られないのでは。また、地域が場所を指すのであれば問題ないのですが混同した使い方になるので注意が必要です。本文中に明記するか、ページの下欄注記（※）に例えば、主に・・・です。と追記してはいかがでしょうか。また、“関係機関”とありますが、同じく明記が必要ではないでしょうか。</p>	<p>市民をはじめとした、読み手側にしっかりと内容が伝わるのが重要と考えますので、今後、作成にあたっては、可能な限り、具体的な表現とするほか、必要に応じて語句の注釈や補足を設けるなど、わかりやすい文章とすることを心がけてまいります。</p>

### 【その他御意見】

・地域と共に進める教育活動や学校づくりを考えた時に、地域社会を空間軸としてのみとらえるのではなく、「今の苦小牧」「10年後の苦小牧」というように、時間軸の視点からもとらえて考えることが必要であると思っています。

また、学校は子どもたちの学びの場であることはもちろんですが、地域コミュニティの核となるような場所でありたいとも思っています。

学校のみならず、保護者、地域の人々が一体となって、子どもたちの教育活動を支えていくよう取り組むことが大切です。

今後とも本市で暮らし、学ぶ全ての子どもたちのために、どうぞよろしく願いいたします。

